

10月16日は「世界食糧デー」 10月30日は「食品ロス削減の日」

食品ロスの現状とGlicoグループの取り組み

～ 食品ロス削減に向けた取り組みをご紹介します ～

10月16日は「世界食糧デー」です。「世界食糧デー」は、国連食糧農業機関（FAO）が1981（昭和56）年に制定した国際デーの一つで、世界に広がる食料問題や飢餓、極度の貧困を考え、解決していくことを目的としています。

また、国内では、昨年10月に食品ロスの削減を総合的に推進することを目的とした「食品ロスの削減の推進に関する法律」(略称 食品ロス削減推進法)が施行され、10月30日は「食品ロス削減の日」と定められました。しかし、食品ロス削減に向けた取り組みが進む一方で、新型コロナウイルスによる影響などもあり、食品ロスは増加傾向にあります。

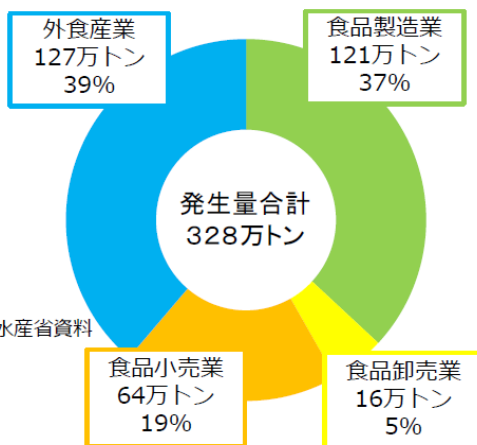
Glicoグループはこうした問題を重要な社会課題として捉え、食品ロスの削減に向け、さまざまなステークホルダーとともにグループをあげて取り組んでいます。本ニュースレターではその取り組みの一部をご紹介します。

食品ロスの現状

「食品ロス」とは本来食べられるのに捨てられている食品のことを指します。日本における食品ロスの量は、年間で612万トンといわれており（平成29年度推計）この量は国連世界食糧計画（WFP）による食料援助量約390万トンを大きく上回っています。また、食品が大量に捨てられている一方で、子どもの貧困は深刻化しており、「平成28年国民生活基礎調査」によると、7人に1人の子どもが貧困状態に陥っています。

事業系食品ロス（可食部）の業種別内訳

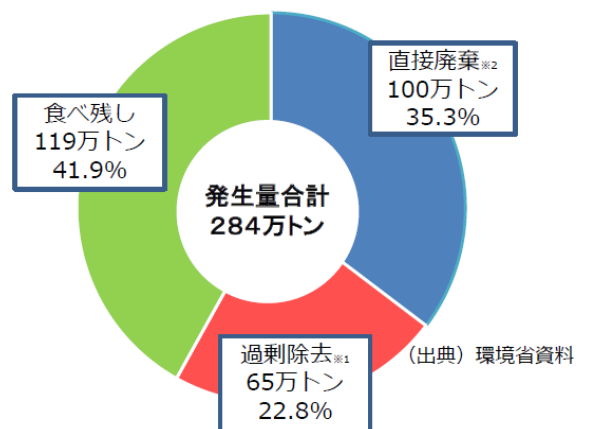
（平成29年度）



（出典）農林水産省資料

家庭系食品ロスの内訳

（平成29年度）



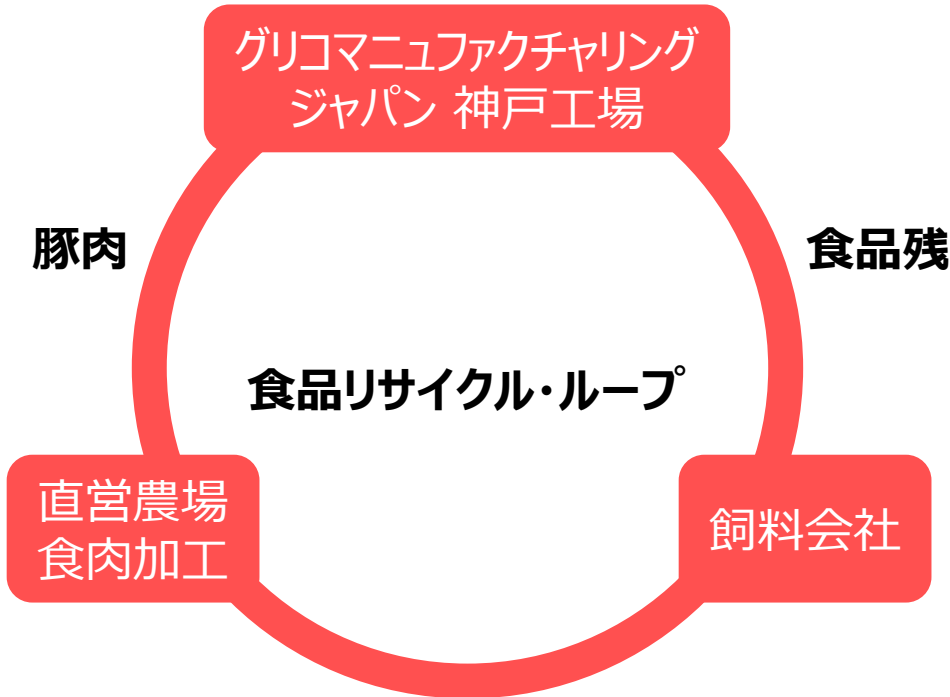
（出典）環境省資料

出典：食品ロス削減関係参考資料
消費者庁（令和2年6月23日）

こうした状況を受け、Glicoグループは食品メーカーとして、廃棄される食品を削減するため、製造工程で発生する廃棄物の削減に注力する等の取り組みの他、フードバンクへの商品寄贈など、食品ロス削減に向けて、地域の方々と協働しながら進めています。

1. 「こどもぴあ保育園 神戸」での取り組み

2019年4月に開園した「こどもぴあ保育園 神戸」（兵庫県神戸市）は、「グリコピア神戸（神戸工場）」の敷地内にある事業所内保育所です（株式会社日本福祉総合研究所が受託運営）。同保育園は、開園1年目から「一粒の種から広がっていく体験」を大切にしたい保育を目標に掲げ、畑活動から始まるさまざまな体験活動に取り組み、その中でも、食品ロスへの取り組みなども評価され、この度、第14回キッズデザイン賞（主催：キッズデザイン協議会、後援：経済産業省、内閣府、消費者庁）を受賞しました。



養豚用飼料

●食品残さを利用して作られた肥料

2019年11月より、食育の一環として、工場が発生する食品残さを利用して作られた肥料をこどもぴあ保育園の家庭菜園で使用し、採れた野菜を保育園の昼食で提供しています。

●神戸の食品リサイクル・ループ取り組み

工場から排出される食品残さで育てられた豚を社内の従業員向け食堂の食材として提供する「食品リサイクル・ループ」取り組みを定期的に行い、従業員の廃棄物対策への意識向上に繋げています。また食品残さから作られた肥料を「こどもぴあ保育園」の家庭菜園で使用し、採れた野菜を保育園の昼食で提供しています。

●豚活

工場が発生する食品残さを利用して肥育された豚を3カ月に1度、スペシャルメニューとして社員食堂で提供する取り組みを2019年1月から開始しています。



※撮影時のみマスクを外しています



2. 家庭で出来る取り組み

●ゴチたんグランプリ

「短時間でごちそう」。略して『ゴチたん』は、短時間でできて、栄養バランスがとれていて、おいしいレシピを共有して、食卓を笑顔にする会員向けサイト「with Glico」内の投稿型企画です。10月のテーマ「食品ロス削減月間」に合わせ「冷蔵庫の食材を上手に使い切る！」をコンセプトに実施しています。

「ゴチたんグランプリ」サイトURL：
<https://with.glico.com/cafe/gochitan/about/index.html>



●ファンミーティングでの食品ロス削減の啓発

「ゴチたんグランプリ」に関連し、コロナ禍によるオンラインでのファンミーティングの実施を予定しています。Glicoファンのかたがたとともに、食品ロス削減レシピを作成し、食品ロス削減の啓発に繋がります。



<with Glicoとは>

with Glicoでは“ココロとカラダの健康”を実現するための様々なコンテンツを用意しています。コンテンツは、単に健康情報を一方的に発信するのではなく、サイトを利用するお客様と共に創り上げる点が特長です。サイト内では、健康に重要な「運動」「栄養」「休息」に関わる情報のほか、それらに関わる各種イベントなども開催されます。

「with Glico」サイトURL：
<https://with.glico.com/>



みんなとつながる ファンのまち

3. 賞味期限や不揃い品に関する取り組み

●賞味期限の延長と年月表示化

江崎グリコでは製造管理、品質管理を徹底し、商品グループごとに賞味期限を設定しています。賞味期限が長い商品については、品質劣化のスピードが遅く、消費段階で日付管理をする意味が乏しいと考えられるため、日付で表示してきた賞味期限を年月表示に切り替え、2016年1月には、ほぼすべての加工食品で年月表示への切り替えが完了しています。



●冬のくちどけポッキー〈ふぞろい品〉の販売

期間限定品として「冬のくちどけポッキー」のふぞろい品を「ぐりこ・や」等で販売しています。お菓子のアウトレット品として、消費者の食品ロス削減への啓発にも繋がっています。



4. フードバンクに関する取り組み

食品メーカーとして、廃棄される食品を削減するため、製造工程で発生する廃棄物の削減に注力する等の取り組みのほか、フードバンクへの商品寄贈を行っています。寄贈商品は主にヨーグルト、果汁飲料、ビスケット等が中心です。

上海グリコでは緑洲フードバンクと連携し、中国の貧困地域の小学生に商品を提供するとともに、食べ物を大切にする精神や良い食習慣に関する知識をお伝えしました。

協働するフードバンク団体へのアプローチも行っており、2018年度に続き2019年度もコープ東北サンネット事業連合にレトルト食品480食を寄付しました。また、2020年1月には、仙台工場従業員がコープ東北サンネット事業連合の方とともに、寄付した商品を寄付先へ配達し、フードバンクの社会的重要性を実感しています。

今後も食品ロス削減に向けて、地域の皆さまと協働しながら進めていきます。



コープ東北サンネット事業連合との取り組み



緑洲フードバンクでボランティア活動している様子

5. その他の取組み

●国連WFP「世界食料デーキャンペーン2020 ゼロハンガーチャレンジ」への協賛

「ゼロハンガーチャレンジ 食品ロス × 飢餓ゼロ」キャンペーンは、「食品ロス削減の取り組みで、途上国の子どもたちに給食を届けよう！」をコンセプトとした取り組みで、すべての人が食べられる世界「ゼロハンガー」を目指し、「食品ロス削減」の取り組みを、飢餓に苦しむ途上国の子どもたちの学校給食支援につなげます。Glicoグループは、この取り組みに賛同し、協賛しています。



●<社内への啓発> ろすのんテーブルトップ設置

もったいない活動の意識づけのため、食品ロス削減国民運動のロゴマーク「ろすのん」を、食堂やサロンに啓発のためのテーブルトップを設置しています。

